

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



2022~2023年度 No.281

5 月報

那須クラブ会長 主題

地域につなげ那須ワイズ IV



強調月間：L T
ユース

今月の聖句 イザヤ52:12

あなたたちの前を進むのは主であり、しんがりを守るのもイスラエルの神だから。

2022~2023年度 主題

国際会長：(IP) ウルリック・ラウロセン (デンマーク)

「輝かそう、あなたの光を」

アジア太平洋地域会長：(AP) チェン・チ・ミン(台湾)

「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

東日本区理事：(RD) 佐藤 重良 (甲府21)

「未来に向けて今すぐ行動しよう」

北東部長： 大久保 知宏 (宇都宮)

「クラブのミッションを育てよう」

2023年度那須ワイズ5月植樹例会のご案内

あなたの手で 緑を育てませんか

恒例の植樹例会を下記により実施致します。お聞き合わせの上、ご出席くださるようご案内致します。小雨決行ですが、晴天になりますようお願いしております。

1. 月日：2023年5月20日(土曜日) 10:00
2. 場所：那須街道「赤松美林」塩那森林管理所指定植林地
3. 集合場所：現地集合(那須街道赤松林入り口の駐車場)
4. 内容：植樹等・周辺のゴミ拾い

5. 行程

タイムスケジュール	内容
10:00	集合
10:15	植樹現場へ
10:30	あいさつ・塩那森林管理所職員からの植樹説明
10:30~11:30	植樹実施
11:30	周辺のゴミ拾い・解散

6. 装備(個人装備・雨具・手巾・帽子・マスク・タオル・飲み物等)

参加者は全員保険加入を致します。

*塩那森林管理所職員の皆様には大変お世話になります。
ヘルメット・苗木・磨練等用具を準備して頂いています。

連絡先
那須ワイズクラブ 会長 河野順子
(090-1997-2077)

参加者は準備・保険加入の都合がありますので、5月15日(月)までに河野会長まで。メールまたは電話(090-1997-2077)連絡をください

クラブ役員

会長：河野 順子
 副会長：村田 榮・田村 修也
 書記：藤生 強
 会計：村田 榮・鈴木 保江
 担当主事：平山 雄大
 ブリテン：田村 修也・村田 榮

4月例会データー(出席率：71.4%)

在籍者 7名
 出席者 3名 メーキャップ 2名
 メネット 1名 ゲスト 5名 ユースリーダー11名

5月 Happy Birthday

なし

・那須聖園老人ホーム訪問(特別例会)

日時：5月5日(金)午後2時~3時
 場所：那須町寺子丙1498-2

・6月第2(役員会)例会

日時：6月6日(火)午後4時30分から
 場所：田村副会長宅

・第26回東日本区大会

日時：6月3日(土)~4日(日)
 場所：APIO 甲府

巻 頭 言

鈴木 保江

子育て奮闘記たぶん18弾

4月から長男、聖也は大学生となり電車、バスを利用して通い始めました。入学式は東京で行われるため私も久しぶりに東京へ行ってまいりました。入学式の場所から東京駅まで3 kmほど歩いて帰ってきました、風が気持ちよかったです。

通学を始めましたが、また、定期券を落としてしまい…。困ったところでしたが落とし物係に届いていたようで一安心です。バイトを始めたり教習所に通ったり大人になったかと思いましたが、そうでもなかったです。朝は起こさないと起きません。起こすといつものように「起きてた。」という生返事。しかし、なんとか起きられるようになったものの「めんどくさいから行かなかった。」なんて日もあります。のんびりやってます。そんなこんなでしたが、食事の後の食器やなべを洗ってくれるようになりました。まだ、1・2回ですが、「まま、忙しそうだから洗っておこうかと思って」と洗ったようです。

先日、寝坊して大学まで車で送りましたが、その時は「僕、やりたいことがなくて大学はいったけどやりたいこと見つけたよ。そのために今、勉強頑張ってるんだ。」と話してくれました。ちょっと笑顔の私でした。1歩進んで2歩下がる。そんな歩みでもいいですよ。

これからの成長が楽しみです。

次男坊、光は、中学3年生となり4月に関西方面に修学旅行に行きました。楽しかった？と聞いたところ「うん」と返事がりましたが何が？と聞きかえしたところ「食事がおいしかった」と光るらしい返答でした。最近、口数が減り会話がなくなってきましたが、少しだけの親子の会話です。お土産にお世話になった叔母にお土産を頼みましたが、京都の漬物を選んだそうで、叔母に届けたところ「気が利くね」とほめてくれました。光るも少しずつ自分で考えられるようになってきてますね。今年は高校受験がありますが、市内の私立に行きたかったようですが、何かやりたいことがあるのか県立をめざしてがんばっていくようです。数学が得意ですが、その他の教科は頑張らねば危ういところです。そんなこんなで2人ともほんの少し成長した春です。



2023. 4.27 4月例会 於：日本基督教団西那須野教会

4月第1例会(講演会)報告

日時：4月27日(木)午後6時～

場所：日本基督教団西那須野教会

出席者：田村、村田、平山の各メンバー、田村メネット、ゲスト：原田、潘牧師ご夫妻、松本(まっちゃんリーダー)主事、武田(かぶきリーダー)スタッフ、リーダーOB3名、リーダー10名、計22名

とちぎYMCA主事松本法判氏を講師に迎えて「YMCAの好きなおとこ」と題して講話をしていただきました。講師の松本主事は那須YMCA設立草創期から担当主事として、県北部地域におけるYMCA活動の発展のためにご尽力いただいた方です。定例のリーダー会の日程と合せての例会でしたのでリーダーの参加者は10名、西那須野幼稚園に就職したOBや少年時代にプログラムに参加していた職員、更には、遠く益子町勤務のOBがバイクで参加するなど、松本主事時代のリーダー会が開催されたような状況でした。また、平山主事の後任として那須YMCAの担当することとなった武田主事が初めて宇都宮から参加されました。開会時間に合わせて、夕食の弁当を準備しましたが、殆どのリーダーは例会終了後に持ち帰りとなりました。

例会は先ず西那須野教会の潘牧師の美味しいコーヒーと手作りのアイスクリームの接待から始まりました。河野会長が急な所要のため欠席となりましたので、田村副会長の開会あいさつの後、出席者が自己紹介をいたしました。

講師の松本主事は「YMCAの好きなおとこ」の演題で、ご自身がリーダーからYのスタッフになった経緯を話され、那須Yでの様々な活動の状況をパワーポイントの映像で説明しながら、Yの活動がどのように素晴らしいものであるか、重要であるか、その活動を通してどのように多くの青少年が成長していったかを話されました。その講話を締めくくったのが、あるYのスタッフがフィリピンでの奉仕活動を通して、太平洋戦争において日本軍がどのような深い傷跡をフィリピンの方々に残されたかを知らされ、平和への願いを互いに固く誓い合ったこと、そして帰国後、あの「幸せなら手をたたこう」の歌が作られ、今では子供から大人まで、世界の多くの国々でこの歌を通して、互いの絆を深め合っていること、そして、リーダーたちが縄跳びの縄を結んだ大きな輪を使って、この「幸せなら手をたたこう」の歌を歌いながら、互いの絆を深め合っていく体験をして講話が締めくくられました。

YMCAからの栃木、茨城、群馬、埼玉の合同リーダー研修会開催等の報告とワイズメンズクラブか

らの植樹例会等の報告の後、全員でYMCAの歌を歌って、YMCAへの志しを新たにして、充実した例会を終了いたしました。

5月第2例会(役員会)報告

日時：4月27日(木)午後4時30分から

場所：西那須野教会

出席者：田村副会長、村田副会長、平山担当主事

1. 御園那須老人ホームへの訪問について

5月5日(金)午後2時に訪問する。寄贈するタオル等を持参する。新施設の見学。特別例会とする。

2. 6月役員会(第2例会)について

5月26日(金)午後4時30分から、田村副会長で行う。6月例会、次年度計画について相談を行う。(後日都合により、6月6日(火)に変更)

3. 5月例会について

植樹例会とし、5月20日(土)10時集合で行う。内容は、植樹とゴミ拾いを行う。竹杭は村田、マジックはYMCAで準備する。

旧西那須野(那須西原)の緑と水(第120回)

田村修也

ちなみに、旧西那須野町は1/3を、旧黒磯市は2/3を直接那須疏水に依存しています。最も、間接的には全てですが。

大田原から野崎に向かう日光北街道沿いの市町境に西郷神社があります。その境界に大きな看板が立てられています。その看板には「清流・那須疏水の流れる町—わたしたちは、水と緑と心を大切にします—」と書かれています。本当にそうだと思います。

こうして、明治10年(1877)に国から調査に派遣されて来た南一郎平が、印南文作さんや矢板武さんが、那須野が原に立って見た夢が、今、現実となって、更に発展しようとしています。国会等機能移転の構想もその一つです。

私は、旧西那須野町の住民の一人として、胸を張ってすべての人に言いたいと思います。「見て下さい。この西那須野の水と緑は、140年かけて、4代の方々がこの地に骨を埋めて、我々の先人たちが、心一つにして築き上げてきたものです。私たちは、それを受継いでいる者です。140年、4世代の挑戦があれば、どんな荒野原にも命を吹き込んでいくことができるのだ」と。以上で、私の説明を終わらせて頂きます。ご清聴有難うございました。

アジア学院での概要説明をした後、現地研修に入ります。2台のバスに乗って、先ず初めに、周囲に

篠の密生地が残る乃木神社北側、墓沼用水沿いの水田に案内し、開墾の状況を説明して実感してもらい、次いで、井口工業団地と東北道那須塩原インターを結ぶ街道に架かる蛇尾川の橋付近に降りて、水の無い川の現状を見てもらいます。次いで、青木別邸下方の那須疏水開墾の際の土砂運搬道であった那須疏水本幹沿いの道路を進んで、本幹から那須東原へ、黒磯市内へ注ぐ第1分水に下りて状況を説明し、那珂川から取水する取入れ口に下りて行って、記念公園で昼食休憩を取ります。昼食休憩後は、那珂川の水位の変化により、取水口をその都度新たに開墾した遺構を見た後、取水口から971mの亀山隧道の入り口迄を見た後、那須野が原に注ぎだされる亀山隧道の出口に案内します。この出口を見つけるために、私は何度も周辺を調査しました。やっと出口に到達した時、そこから流れ出す疏水の水を前にして、膝を折らざるをえませんでした。あの時の感激は今も鮮やかによみがえって来ます。

次いで、那須疏水本幹の側道を通って、4分水中最も長い第2分水（大田原市内品川開墾はで23.6km）の分水状況を説明して、西へ直進して、水無川である熊川のサイフォンを通過して、最大の難所であった那須東原と那須西原を分断する蛇尾川の西岸に出ます。そこで、蛇尾川の川幅200mの水無川原を確認してもらい、標高差の微小なその下を貫いて、サイフォンで噴出している那須疏水本幹を実感してもらいます。

次いで、烏ヶ森西麓の那須開墾社第2農場跡地に案内して、大木の根が剥き出しになっている巨大な防風土塁と農場事務所の周囲に流れる第3分水から引き込まれた疏水の流れを直に触れてもらい（時間配分の余裕がある時は那須野が原開拓と那須疏水開墾の記念すべき各行事が執り行われた烏ヶ森頂上に登って、開拓された那須野が原の一部を眺望してもらおう）、そこから南下して、常盤が丘と向かう。急な石段を上ると、中央に右に印南文作・トメ夫妻、左に矢板武さん、右脇端に安藤治輔さん、左端に品川貞之助さんという那須野が原夏期タクト那須疏水開墾に尽力した方々が眠っている墓所に案内して、定刻にアジア学院に帰校します。

特に、那珂川の水が那須野が原に那須疏水が流れ出る亀山隧道の流出口では、引率のスタッフ、研修生の皆さんに繰り返しお話ししていることがあります。以下の通りです。

「那須野の大地の水は、すべてここから始まります。飲み水も、農業用水も、工業用水も、すべての生活用水はここから始まります。天から下って来た水も、

この那須疏水を通して私たちにもたらされます。男であろうと女であろうと、子どもであろうと高齢者であろうとも、何処の国から来た人であろうとも、那須野の大地に来て、水を1杯飲んだ時から、その人の体の中を行き廻る水は、那須疏水になるのです。ですから、私たち、那須疏水の水を飲んで生きている者は、すべて那須疏水兄弟姉妹なのです。それは、聖餐式において、イエス・キリストの裂かれた体と流された血潮に、共に与ることによって、私たちがすべての違いを超えて、イエス・キリストにあって、一つにされることと同じであります。この那須疏水をつくるために、一人の農村指導者がいのちを捧げてくれました。印南文作さんです。この那須疏水には、印南文作の、いのちが、心の思いが生き生きと脈打っております。ですから、そのことを理解している人々には、この那須疏水の水を飲むことによって、印南文作さんのいのちが、こころの思いが、その人のなかに流れて、印南文作さんの意志、志を受け継いで生きる人間になっていくのです。皆さん一人一人は、今を生きる印南文作さんになったのです。印南文作さんは、那須疏水の本幹が完成して2年後の明治21年（1888）1月7日に、長年の持病が重くなって、永眠いたしました。57歳の生涯でした。本人の遺言で、那須野が原で唯一、常盤木の赤松が生い茂っていた常盤が丘に葬られました。

その後、印南文作さんの徳を慕う那須開墾社関係の方々によって、明治29年（1896）印南文作さんの顕彰碑が、数々の那須野が原開拓の記念の地となった、烏ヶ森公園の丘の上に建てられました。撰文は佐々木高行伯爵、書は金井之恭貴族院議員で、明治の3名筆といわれる所の大家で、明治天皇に書で仕えた方です。

その碑文には、前文にその生涯の履歴と功績を記したあとに、漢詩で「動くも身の為にせず、今にして古を行ふ この人にして亡し 誰かその武（あと・功し）を継がん 禾黍（かんしょ・いね、きび）芄々（ほうほう・繁る）たり 原田臙々（げんでんぶぶ・土地が肥えて美しい） 魂や長留せり（長くどまる）これ子の士たりと（男の中の男である）」と書かれています。

アジア学院の引率者の方が、この碑文を見て、「田村さん、これ子の士ではなく、子の士じゃないんですか、印南さんがいのちを捧げてきりひらいた大地ではないのですか」と言われた言葉が今も耳に残っています。確かに碑文の「士」「土」とどちらにも読めるかたです。

以上で、「旧西那須野（那須西原）の緑と水」の掲載を終了させていただきます。
長い間、ありがとうございました。

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園
西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

新年度がスタートして1ヶ月になりました。

日本の幼児教育の祖といわれる倉橋惣三（1882～1956）が、「一人の尊厳」という題の一文に「人間は一人として迎えられ、一人として遇せられるべき、当然の尊厳をもっている。（中略）今我等は、新しき子供を迎えた。一団の新入園児を迎えたのでもなく、一組の新入学生を迎えたのでもない。我等の迎えたものは、その一人ひとりである。一人ひとりが人間としての尊厳をもって、我等の前にあるのである。一人ひとりたることを忘れるのは、人間に対するすべての誤りの出発点である。一人ひとりたることを無視するのは、人間に対するあらゆる罪の基である。一人の尊厳に一毫の変わりもない」と記されています。

私は、新学期になるといつもこの文が頭をよぎり、1人ひとりの人格が大切であることを再認識します。

私はつい最近知ったのですが、彼はキリスト者の内村鑑三さんと出会い、キリスト教の影響を強く受けたそうです。それで、この文が、キリスト教主義教育にも通じている教育の普遍的な原則の一つということに納得しました。日本の幼児期教育のはじまりが、イエスの愛を基調としていることを誇りと思いい。彼が言うように、新入園児という名前の子どもはおりません。今年度も、園児一人ひとりの人格を大切に保育にあたっていきます。

アジア学院だより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

校長 荒川 朋子

歴史の延長線上に生きるわたし

NHKの『ファミリーヒストリー』という番組をご存じでしょうか。芸能人の家族のルーツを番組スタッフが調査や取材を重ねて丁寧にたどり、どのような時代にどんなことをした人たちがその芸能人の祖先にいて、今にどのにつながっているのかを、それぞれの時代の映像や写真を織り交ぜながらドラマ

チックに解き明かしていく番組です。

私は先日母と福岡に出かけ、『ファミリーヒストリー』さながらの体験をしました。母の父親（私の祖父）は福岡県久留米市の出身で、戦時中に軍人になり満州に赴任しました。東京から満州に嫁いだ祖母と満州で家庭を築き、私の母はそこで生まれました。しかし間もなく、旧ソ連軍が満州に侵攻する直前に祖父が体を悪くし、日本で療養をするために家族全員で帰国を余儀なくされました。満州に残された日本人たちは、その後波乱の運命をたどるわけですが、母の家族は幸いにも久留米で終戦を迎えました。しかし、そこへ台湾で事業をしていた兄弟の家族が大勢で実家に引き揚げてきたために、3男であった祖父は自分の家族を連れて実家を出て、祖母の東京の親せきに身を寄せることとなります。

今回訪ねたのは、その久留米の祖父の実家でした。現在本家を守っているのは91歳になる祖父の従弟にあたる人でした。この方と祖父は仲がよかったために、私もこの方の名前は小さいころからよく聞いていたのですが、面と向かって話したことはありませんでした。ましてや私自身は久留米訪問は今回が初めてで、祖父の本家のことはほとんど知りませんでした。それでも大好きだった祖父のことをもう少し知りたかったことと、高齢になってきた母が旅行ができなくなる前に、なんとか久留米に連れて行ってやりたいという気持から、今回の旅を計画しました。

少し祖父の面影を感じさせるような面持ちの祖父の従弟は、年齢を全く感じさせないほどしゃんとしていて、記憶力も良く、人の名前も地名も、出来事の起こった年も、事のいきさつや関係性までも、すらすらとよどみなく話すので、私は、約100年におよぶ祖父の家族に関連する時代の情景があたかも目の前に浮かぶような思いで話を聞いていました。

その訪問の後に残った思いは不思議なものでした。私という人間につながる人々の歴史の中に、私は明らかに生きていくという思いでした。このところ、国内や世界に起こっている変化、次々に現れる新しいこと、これから起こるであろうことに思いをはせ、不確実な中に生きていくという不安に満たされ、視線はいつしか、今この時、あるいはずっと先ばかりを見ようとしていたことに気付かされました。しかし、今を生きる自分は、ずっと昔からののちをつないできた祖先の方々の、多くは抗えない時代や運命をもがいて生きてきた歴史の延長線上にあることをしっかりと感じたのでした。こういう時代だからこそ、自分の「いのち」のルーツをたどることが大切

だと、まずは自分の子供に伝えたいと思うのです。

編集後記

YMCAだより

【新年度のご挨拶】

日ごろよりYMCAの諸活動にご理解、ご協力を頂き感謝申し上げます。新年度

(2023年度)がスタートしました。2023年度那須YMCAに関わるスタッフの紹介をさせていただきます。

菅原 侖(すがはら れい・じ~こリーダー)

川口 夏菜子(かわぐち かなこ・ぐっちょリーダー)

武田 将吾(たけだ しょうご・かぶきリーダー)

※地域活動、西那須野幼稚園委託事業(運動遊び・サタデークラブ) 児童野外活動、ユース活動など

平山 雄大(ひらやま たけひろ・のりしおリーダー)

※ワイズ担当主事

英会話教室：小井土 明日香(こいど あすか)

小野寺 温代(おのでら あつよ)

英会話教室補助・事務：村上 尚子(むらかみ なおこ)

英会話講師：Alex (アレックス)

英会話講師：Lee-Anne (リーアン)

今年度も引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。那須YMCA 担当スタッフ一同

【とちぎYMCA・那須YMCA5月の予定】

・5/4~6(日) 北関東赤城プレキャンプ@赤城キャンプ場

・5/13(土) サタデークラブ@八幡山公園

・5/21(土) サタデークラブ@八幡山公園

・5/27(土) サタデークラブ@ふれあいの丘

・5/29(日) とちぎYMCAリーダートレーニング@宇都宮YMCA

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前(リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言

今月は休みます

・元東京目黒クラブの福島正さんが4月11日に召天されました。98歳です。福島さんは、那須クラブと東京目黒クラブとのDBC締結にご尽力をいただきました。那須クラブの25周年記念式典において、DBCを締結。その後数回にわたり、那須クラブとの合同例会にご出席をいただきました。私事で恐縮ですが、私の2月の誕生日の時に誕生日祝いのはがきが今年も届きました。